

第2次野洲市環境基本計画 平成29年度評価一覧

※結果について、数値化できるものはパーセントで表記し、それ以外は:A…達成、B…ほぼ達成、C…大半が未着手、D…未着手とする。

基本目標	点検番号	施策の方針	重点プロジェクト	第2次野洲市環境基本計画(H29～H38)で定めた進捗評価のための指標			平成29年度目標	事業計画	取組・実績	結果	分析	課題等	方向性の判断/改善案等
				指標	現況	10カ年(H38まで)の目標							
1 安全で快適な生活環境づくり	1-1	大気環境 水環境の保全	健康で快適な暮らしを守るプロジェクト	大気汚染に係る環境基準の達成状況 ※NO2、SO2、SPM (三上小学校、駅前北自治会館前、小堤、七間場) 公共用水域の水質汚濁に係る環境基準の達成状況 ※環境基準の類型指定河川 (C類型:新川、江口川、童子川、祇王井川、大山川)のBOD	環境基準を達成	維持	環境基準値を超過した場合の的確な対応	大気、水質、騒音、振動などについて、継続的に環境測定や調査(モニタリング)を行い、その結果を公表する。 環境基準値を超過する事案が発生した場合は関係機関と連携を図り、迅速および的確に対応する。	大気、水質、騒音、振動などについて、環境測定や調査(モニタリング)を行い、環境基準を超過した項目には迅速にその原因の究明を行い、この結果を公表した。 大気環境調査 二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質を夏季4箇所、冬季1箇所調査の結果、全て環境基準を満たしていた。 大気中アスベスト(石綿)調査を冬季1箇所にて実施の結果、検出されなかった。 河川水質調査の生活環境項目調査 祇王井川、江口川、童子川、新川、大山川の5河川は、年4回調査を実施した結果、新川及び江口川の溶存酸素値が環境基準を満たしていなかった。 大井川、友川、工場排水井口、工場排水六条の4河川は、年1回調査を実施した結果、友川及び大井川での水素イオン濃度の値が環境基準を満たしていなかった。 有害物質調査 祇王井川、友川、大井川、童子川、家棟川、大山川、新川、江口川、工場排水井口、工場排水路六条、光善寺川の11河川にて年1回調査を実施の結果、全て環境基準を満たしていた。	A	河川水質調査の生活環境項目の4河川以外は、全て基準を満たしていた。 基準を満たしていなかった4河川について環境基準を超過した理由として、河川の流量が少なかったこと、植物プランクトンの光合成が活発だったことが考えられる。	自然要因が大きい場合には環境基準の達成は改善が困難。	継続し、経年変化とともに環境基準の達成状況を確認する。
	1-2	生活環境の保全	環境保全協定締結事業所数	91%(107件) (平成27年度)	100%	未加入事業所5社 (年度当初時点)との締結	工場周辺の生活環境を守るため、環境保全協定の推進を図る。	環境保全協定締結事業所109社から選定した事業所を訪問(35社)環境法令の遵守の確認や環境事故等の注意喚起を実施した。 事業所の環境保全推進に資する情報提供を市ホームページを利用し、環境メールマガジンとして発信した。(3回) 市内事業所の環境保全スキルのレベルアップを図る環境研修会を2回実施した。(55名参加) 環境保全協定未締結事業所に訪問や案内等により、新たに1社環境保全協定を締結することができた。また、未締結者への聞き取りを行った。	加入事業所96% (110社/114社)	未締結者への聞き取りの結果、会社の方針であること、経済的、実務的メリットを感じないことが理由としてあげられた。	メリットを感じていない事業所への協定締結促進の方策。	継続し、環境法令の遵守、環境事故等への啓発活動を行うとともに、未締結事業所には粘り強く締結を促す。	
	1-3	環境美化の推進	きれいなまちを守るプロジェクト	ごみの不法投棄件数 ※廃棄物不法投棄監視員巡視報告	44件 (平成23～27年度の平均)	減少	発生件数の減少	苦情件数の多い野焼きや土地の適正管理について、広報やHPにより周知啓発を行う。	野焼きの苦情には、現場に急行、消火・啓発指導を実施した。 土地の適正管理について広報に掲載、啓発実施した。	苦情の発生件数 野焼き 26件 (前年度+5件) 土地の適正管理 17件 (前年度+1件)	苦情に対しては迅速に対応し、指導を行った。 周知啓発指導を行うも苦情件数は横ばい状態である。	広報、周知活動の方法。	野焼きや土地の適正管理について広報やHPによる周知啓発方法を検討し、実施する。
	1-4	まちなかの緑化	まちなかの緑づくりプロジェクト	市民一人当たりの都市公園面積 ※野洲市都市公園条例を参照	214件 (平成23～27年度の平均)	減少	不法投棄件数の減少 (平成28年度 261件)	不法投棄の監視、パトロールを行うと共に、散在性のごみや放置自転車などが出ないよう啓発を図る。 自治会や市民団体の自主的な美化活動や、ごみゼロ大作戦・県下一斉清掃などの美化活動に取り組む。 市民や事業所によるボランティア清掃活動を支援し、まちの美観の維持・向上に取り組む。	不法投棄報告件数400ヶ所849件(うち不法投棄監視員巡視報告件数264件) ごみゼロ大作戦:5/28実施 県下一斉清掃:夏季6/18・25冬季:11/19・26実施 ボランティア清掃支援:37件	不法投棄監視員巡視報告件数 264件	不法投棄件数は、増加傾向にあり、減少させることができなかった。 不法投棄報告件数が増加したのは監視員が力を入れたことが要因の1つと考えられる。(前年度比+3件)	不法投棄を減少させる有効な方法の検討。	不法投棄減少に向けた有効な取組方法を検討し、継続する。
1-4	まちなかの緑化	まちなかの緑づくりプロジェクト	市民一人当たりの都市公園面積 ※野洲市都市公園条例を参照	8.07㎡ (平成27年度)	10㎡	開発行為に関する技術基準に基づく公園整備の推進	公園の配置基準に従い、開発行為に対して適正な指導を行う。	開発行為に関する技術基準に基づく公園面積の拡充整備に向けた協議を行った。 現状は、公園面積70,835㎡(市民一人当たり8.06㎡)である。	最終目標(10㎡)の 80.6%達成	市民一人当たりの都市公園面積が微減(8.07㎡→8.06㎡)したのは、公園面積(70,835㎡)は変わらないが人口が増加したためである。 新たな整備事業に向けて協議しているが整備に至っていない。	都市公園の整備予定が未定。	都市公園の整備予定がないため、都市公園に限定せず、開発行為に関する技術基準に基づく公園整備に対し、事業継続する。	
1-4	まちなかの緑化	まちなかの緑づくりプロジェクト	河辺林保全活動実施回数・参加者数(のべ)	33回・404人 (平成23～27年度の平均)	維持	えこっち・やすとの協働による事業実施 一年30回・400人以上	野洲川河辺の森林を保全し、市民による森づくりを支援する。	河辺林保全活動実施回数 39回 参加者数 526人 企業(オムロン様)や「えこっち・やす」自然・山部会との協働により野洲川北流跡自然の森の保全活動を実施した。	100%	年度目標を達成できた。	なし	継続する。	

第2次野洲市環境基本計画 平成29年度評価一覧

※結果について、数値化できるものはパーセントで表記し、それ以外は:A…達成、B…ほぼ達成、C…大半が未着手、D…未着手とする。

基本目標	点検番号	施策の方針	重点プロジェクト	第2次野洲市環境基本計画(H29～H38)で定めた進捗評価のための指標			平成29年度目標	事業計画	取組・実績	結果	分析	課題等	方向性の判断/改善案等
				指標	現況	10ヵ年(H38まで)の目標							
2 循環型社会・低炭素社会づくり	2-1	3Rの推進	ごみの資源化プロジェクト	リユースステーション利用者数 (リユース物品無償譲渡会参加者数)	121人 (平成27年度)	維持	リユース利用者数 →120人以上	リユースの啓発と推進を図る。	リユース無償譲渡会の実施 参加者38人 出品数54点中27点譲渡成立(譲渡率50%)	リユース利用者38人 目標の31.7%	啓発不足による目標利用者数の未達成。	利用者数増加の有効な啓発。	アンケート(譲渡会の開催回数・時間帯・場所・譲渡品等)を実施し、利用者のニーズを把握した上で継続する。
				市内で回収した廃食油のリサイクル率	100% (平成27年度)	100%	廃食油回収量の増加	廃食油回収の周知を行い、市民活動とともに廃食油を回収し、BDF(バイオディーゼル燃料)として再生し公用車で利用する。	廃食油の回収は、市民団体との連携により、毎月第4土曜日の回収及び市の回収BOXによる回収を実施した。合計4,585リットル回収し、全量再生資源化を図った。※前年度3,400リットル 年度中にバイオディーゼル公用車が故障・廃車となり、BDFとして市内での利用ができなくなった。	100%	回収BOXによる回収が全体的に増加(前年比125%)したこと、市民団体の活動による回収量が大幅増(全年比190%)したことが、回収量増加の要因となった。	廃食油回収量が少ない地域への周知方法。	再生したBDFを公用車で利用することができなくなったため、事業計画にあったBDFとして再生し公用車で利用する計画は中止するが、廃食油の資源化に対する市民意識高揚を図るための有効な啓発活動を実施し、廃食油の回収を継続する。
	2-2	廃棄物の適正処理	ごみ減量プロジェクト	1人あたりの一般廃棄物の排出量 ※一般廃棄物処理計画における目標を参照	738 g/人・日 (平成27年度)	703.5 g/人・日 (平成36年度)	723.0g/人・日	事業所から排出される事業系一般廃棄物の減量や適正な処理に取り組む。	平成29年9月 水銀を含むごみの回収強化 食品ロス削減に関する学習会(10人参加)	777.0g/人・日	ごみ組成による紙類の割合は減少したが、事業系一般廃棄物を中心にごみが増加しており、不適正なごみの出し方も多い。 雑がみの出前講座実施が小学校3校にとどまり不十分であった。	廃棄物適正処理に関する啓発、雑がみの資源化を含め、ごみ減量に関する市民啓発の工夫と強化。	廃棄物適正処理に関する啓発の徹底、および雑がみに関する出前講座と食品ロス削減の啓発活動を行って継続する。
							ごみの組成調査による雑がみ比率の減少	可燃ごみに混入している「雑がみ」の資源化を推進する。 雑がみに関する出前講座を市内小学校3校で実施	前年度比 15%減少				
	2-3	地球温暖化への対策	地球温暖化対策推進プロジェクト	クリーンセンターのサーマルリサイクル熱回収率 ※熱回収量/熱発生量	—	10%以上	余熱利用施設の整備に向けた事務推進	新クリーンセンターのサーマルリサイクルによる余熱を有効利用できるようすすめる。	余熱利用施設整備運営事業実施方針による事務推進 選定委員会で余熱利用施設のPFI事業者を決定	A	実施方針により特に問題なく事務を遂行。	特になし。	継続する。
				エコドライブ講習参加者数(のべ)	15人 (平成27年度)	増加	エコドライブ講習会参加者の増加	エコドライブの啓発により、CO2排出削減に取り組む。	エコドライブ講習会の開催 (平成29年11月16日 6人参加) 参加した方全員について、燃費測定結果において1～12%の範囲で平均で6%の燃費改善が見られた。	目標の40% (6人/15人)	参加者への周知期間が2週間程度と短かったことが、目標参加者数が未達成の一要因と考えられる。	参加者拡大の有効な啓発手段。	参加ニーズを把握するためのアンケート(開催日程・時間帯・会場等)を行い、CO2削減に対する市民意識高揚のための啓発活動として実施、継続する。
			コミュニティバス年間利用者数	52,718人/年 (平成27年度)	増加	コミュニティバス年間利用者数 →52,700人以上	市内循環バス(おのりやす)の利便性向上に取り組む。	高齢者の運転免許証自主返納の増加に伴う、公共交通への転換促進と自家用車による通勤・通学者の公共交通への切替の普及を行った。 H29年度 コミュニティバス年間利用者実績 49,614人	目標の94.1%	コミュニティバス利用者の6割強が高齢者であり、高齢者の利用率は年間一定率をキープしている一方、通勤・通学者は自家用車による駅への送迎等が根強く、市民の公共交通離れに歯止めがきかない状況がある。	人口減少、少子高齢化、高い自動車利用傾向、限られた財源で公共交通維持への費用負担。	市民のニーズに合致する公共交通政策を検討しつつ、継続する。	

第2次野洲市環境基本計画 平成29年度評価一覧

※結果について、数値化できるものはパーセントで表記し、それ以外は：A…達成、B…ほぼ達成、C…大半が未着手、D…未着手とする。

基本目標	点検番号	施策の方針	重点プロジェクト	第2次野洲市環境基本計画(H29～H38)で定めた進捗評価のための指標			平成29年度目標	事業計画	取組・実績	結果	分析	課題等	方向性の判断/改善案等
				指標	現況	10ヵ年(H38まで)の目標							
3 里山から琵琶湖へつながる自然環境づくり	3-1	生物多様性の維持・向上 河川・琵琶湖の保全	みんなが親しみきれいな川づくりプロジェクト	河川・湖岸清掃活動実施回数、参加者数(のべ)	10回・213人 (平成23～27年度の平均)	維持	ピワマス生息環境の整備や河川清掃活動の実施→5回・100人以上 ※指標に基づき、3-3と合算	琵琶湖固有種のピワマスが生息できる環境づくりを推進するほか、清掃活動などを実施し、河川環境の保全に取り組む。	市民団体や地域、企業などで連携し、家棟川を中心に、あやめ浜、新川、童子川、中ノ池川などで清掃活動を実施(延べ10回実施延べ160名参加)	100%	清掃活動は、市民活動として定着しているが、河川にゴミが捨てられている現状があり、全てのゴミを回収することはできていない。	ゴミの分布状況に応じた清掃場所の設定。ゴミの流入量を減らすためのポイ捨て防止等の啓発。	河川清掃活動のPRを通じて、参加者の増加と河川保全(ポイ捨て抑止)の意識の高揚を図りつつ、継続する。
				環境学習会・体験イベント等実施回数、参加者数(のべ)	53回・1,763人 (平成23～27年度の平均)	維持	環境学習・イベントの実施→45回・900人以上 ※指標に基づき、3-3と合算	生きもの観察会やエコ遊覧等を通じて、河川環境を知る機会を提供する。	家棟川エコ遊覧 ホタルの住める川づくり びわ湖放送主催の「第32回びわ湖ほのほの大賞」を受賞 ピワマスを戻す取り組み 第11回淡海の川づくりフォーラムにて山紫水明賞(滋賀県河港・砂防協会賞)を受賞 びわ湖環境学習とヨシ苗づくりの実施、ヨシ群落再生事業の実施、砂浜学習会の開催、あやめ浜まつりの開催、漁民の森づくり事業の実施、ピワマスフォーラム開催、生態回廊の再生 延べ48回実施1899人参加	100%	事業として定着しており、目標を上回る回数及び参加者を達成しているが、参加者の理解度や事業効果についての検証には至っていない。	事業毎に参加者の理解度等を把握し、検証・改善を行う。	アンケートや座談会等の実施により、事業効果を検証しつつ、継続する。
	3-2	生物多様性の維持・向上 里山の保全	里山を守り育てるプロジェクト	里山保全活動実施回数、参加者数(のべ)	29回・346人 (平成23～27年度の平均)	維持	里山保全活動→30回・340人以上	良好な里山環境の整備及び生物多様性の保全を図る。	里山・林道の保全作業 小堤生産森林組合のエリア 台風21号による倒木処理(城山・鏡山西北尾根)、城山主郭の草刈りと曲輪の整備、登山道入口の路肩整備と谷川の整備 大塚原生産森林組合のエリア 大山側渓流の整備、旧林道の道整備、活動事業のための会場整備などを実施 延べ35回実施 延べ407人参加	100%	予定回数以上の保全活動の実施により参加者数の目標を達成することができたが、参加者(部会員)の拡充及びリーダーの育成が進んでいない。	部会員の増員。	里山保全活動イベント参加者への勧誘、啓発を図りつつ、継続する。
				里山学習会・体験イベント等実施回数、参加者数(のべ)	16回・511人 (平成23～27年度の平均)	維持	里山学習・イベントの実施→15回・500人以上	子どもや市民が里山に親しむ活動 タムシバ山春の花登山 40人参加 篠原小学校「伊勢道峠越え」181人参加 やす環境フェスタ2017 約400人参加 北野幼稚園里山自然観察会 78人参加 錦秋の里山登山 18人参加 城山初日の出登山 約30人参加 森づくり塾の実施 2回 81人参加 野洲の山を知る探索 8回 82人参加 その他協働活動 11回 233人参加 延べ27回実施 延べ1143人参加	里山の機能を理解するための情報提供やイベント等を行う。	クラフトや里山体験の開催要請数が増加したことにより、目標を上回る回数及び参加者を達成した。参加者の理解度や意見等を把握するアンケートが未実施の事業もあり、事業効果の検証や改善への取り組みが必要。	事業毎に参加者の理解度等を把握し、検証・改善を行う。	アンケート、座談会等の実施を行って、継続する。	
	3-3	生物多様性の維持・向上 河川・琵琶湖の保全	びわ湖を守ろうプロジェクト	河川・湖岸清掃活動実施回数、参加者数(のべ) ※再掲(3-1指標)	10回・213人 (平成23～27年度の平均)	維持	湖岸清掃活動の実施→5回・100人以上 ※指標に基づき、3-1と合算	マイアミ浜やあやめ浜での清掃活動に取り組む・またそうしたボランティア活動を支援する	市民団体や地域、企業などで連携し、家棟川を中心に、あやめ浜、新川、童子川、中ノ池川などで清掃活動を実施(延べ10回実施延べ160名参加)	100%	清掃活動は、市民活動として定着しているが、河川や琵琶湖にゴミが捨てられている現状があり、全てのゴミを回収することはできていない。	ゴミの流入量を減らすためのポイ捨て防止等の啓発。 市外から流入するびわ湖の漂着ゴミに対する対策が困難。	琵琶湖や河川に溢れるゴミの現状を周知し、清掃活動のPRを通じて、参加者の増加と河川保全(ポイ捨て抑止)の意識の高揚を図りつつ、継続する。
				環境学習会・体験イベント等実施回数、参加者数(のべ) ※再掲(3-1指標)	53回・1,763人 (平成23～27年度の平均)	維持	あやめ浜まつりやヨシ植えイベントの開催→5回・800人以上の参加 ※指標に基づき、3-1と合算	琵琶湖環境の保全意識を啓発するための活動を行う。	びわ湖環境学習とヨシ苗づくりの実施 ヨシ群落再生事業の実施、砂浜学習会の開催 あやめ浜まつりの開催 7回1257人参加 環境学習イベント 延べ48回実施1899人参加 ※3-1合算	100%	事業として定着しており、目標を上回る回数及び参加者の達成やヨシの定着面積の増加はしているが、参加者の理解度や事業効果についての検証には至っていない。	事業毎に参加者の理解度等を把握し、検証・改善を行う。	アンケート、座談会等の実施を行って、継続する。
	3-4	農地の保全	環境にやさしい農地の活用プロジェクト	環境こだわり農産物の栽培面積	997 ha (平成27年度)	維持	環境こだわり農産物→栽培面積997ha以上	エコファーマー農家を紹介し、環境にこだわった農産物を広める。	環境こだわり農産物の栽培面積は1,007ha、須原魚のゆりかご水田協議会主催イベント 水田魚道の設置:50人、田植え体験:80人 いきもの観察会:220人、稲刈り体験:110人 環境保全型農業直接支払交付金の制度改正説明会を開催し、農業において、環境保全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組である「GAP」について市内農業者に周知を図った。	100%	魚のゆりかご水田の取組について、県内外の多くの方に普及啓発できた。 農業における環境保全等について、周知し、栽培面積の拡大が図れたが、生産された農産物の周知までには至っていない。	取り組みにより生産された農産物の消費者への認知度を向上させることが必要。	事業継続し、より安全で安心な農産物を消費者に広めるとともに事業の推進による琵琶湖等の環境保全を図る。
				有機農業栽培面積	25 ha (平成27年度)	維持	有機農業栽培面積→25ha以上	環境保全型農業やゆりかご水田など、環境に配慮した農業を推進する。	有機農業の栽培面積は18ha 須原魚のゆりかご水田協議会主催イベント 水田魚道の設置:50人、田植え体験:80人 いきもの観察会:220人、稲刈り体験:110人	72%	農業生産における労力コストの増大や農産物の品質、収量の不安定がハードルとなり、栽培面積の目標は未達成であった。	有機農業の栽培面積の拡大。	滋賀県が有機農業の推進を目標としていることから、連携して有機農業の栽培面積の拡大に向けて、継続する。

第2次野洲市環境基本計画 平成29年度評価一覧

※結果について、数値化できるものはパーセントで表記し、それ以外は:A…達成、B…ほぼ達成、C…大半が未着手、D…未着手とする。

基本目標	点検番号	施策の方針	重点プロジェクト	第2次野洲市環境基本計画(H29～H38)で定めた進捗評価のための指標			平成29年度目標	事業計画	取組・実績	結果	分析	課題等	方向性の判断/改善案等
				指標	現況	10ヵ年(H38まで)の目標							
4 環境学習の推進による市民活動の促進	4-1	環境学習の推進	みんなで環境学習プロジェクト	出前講座等(省エネ・リサイクル関連)実施回数、参加者数(のべ)	17回・642人 (平成23～27年度の平均)	継続	出前講座等の実施 →17回・640人以上	身近な環境から地球規模の環境まで、広く知識を習得する機会を増やし、市民が自ら環境保全に取り組む意欲の増進を図る。	古紙を利用した、紙漉き要領でつくるリサイクルペーパーアート 4回93人 エコキャンドルづくり講座の実施 2回67人 出前講座の実施(環境啓発人形劇・紙芝居など) 6回223人 野洲川北流跡河辺林での自然林学習イベント カブトムシ幼虫観察会及び森の探検 2回204 タケノコ掘りイベント 54人 自然の森昆虫観察会 29人 秋の自然観察会 36人 ほか 延べ17回実施706人	100%	年間の計画に則した回数を実施し、目標どおりの参加者を募ることができたが、参加者の理解度や事業効果についての検証には至っていない。	事業毎に参加者の理解度等を把握し、検証・改善を行う。	アンケートや座談会等の実施により、事業効果を検証しつつ、継続する。
	4-2	環境活動団体等への支援 普及・啓発の担い手の育成・継承	環境活動支援プロジェクト	クリーンセンターの市民活動拠点における市民活動等実施回数	—	年1回以上	エコプラザでの市民活動 →年1回以上	市民(市民団体)や事業所、学校、行政等が各地域で行っている環境活動を広く情報共有・発信し、各団体間の相互交流を促進する。	環境フェスタ2017への参加	A	計画通り参加することができた。	なし	継続する。
				HP情報発信数	—	月1回	月1回以上の市HP周知		市ホームページ 月1回以上24回記事掲載	A	各活動における啓発や事業案内について、年間を通して記事掲載することができた。	各プロジェクトによつての掲載頻度、偏りなどの分析が行えていない。	HP更新毎に確認を行うなどの検証をしつつ、継続する。